

1 ひとを育む

159億円 (対前年 +9億円)

- 人口減少を食い止めるため、さらなる少子化対策が必要 [合計特殊出生率1.48 (平成30年)]
- さらなる学力の向上のため、教職員の育成や学習環境の充実が必要
- 全国規模のスポーツ大会・文化祭の開催に向け、気運醸成や開催準備が必要

未来を拓く子供への重点投資、文化・スポーツのさらなる振興

<p>未来を拓く 子供を育て る環境づくり</p>	<p>128.3億円 (対前年+14.6億円)</p> <ul style="list-style-type: none">増 幼児教育・保育無償化等の拡大 (+8.3億円)増 県立学校へのICT環境整備 (+0.9億円)	<ol style="list-style-type: none">1 子供を地域で育む環境づくりや困難を抱える子供たちへの支援 (P5)2 子育て世代の経済負担軽減・待機児童の解消 (P6)3 子育てに関する情報発信と相談体制、結婚支援や仕事と子育ての両立支援の強化 (P7,8)4 研修の充実など教職員の育成強化 (P9)
<p>みんなが 活躍できる 社会づくり</p>	<p>30.5億円 (対前年▲5.2億円)</p> <ul style="list-style-type: none">減 ねんりんピック紀の国和歌山2019の終了 (▲12.0億円)増 熊野地域の歴史・文化発信拠点整備支援 (+5.0億円)増 国文祭・障文祭・総文祭の開催準備 (+1.7億円)	<ol style="list-style-type: none">5 就職氷河期世代の正社員雇用促進 (P19)6 国文祭・障文祭・総文祭の開催準備 (P11)7 ワールドマスタースゲームズの開催準備 (P12)

1 ひとを育む

◇新規・拡充
◇継続

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

ひと

つばと

いのち

くらし

地域

3

未来を拓く子供を育てる環境づくり

1. 子供を安心して育てる環境の充実 重点事項

- ◇子供を地域で育む環境づくり・困難を抱える子供たちへの支援 **155,896 (143,078) P5**
全小学校区への放課後児童クラブと学習や体験活動を行う場の設置を促進するとともに、家庭への訪問支援等を強化
- ◇多様なニーズに対応した子育て支援の充実 **791,143 (691,085)**
一時預かりや延長保育、放課後児童クラブ、ファミリー・サポート・センター事業など、子供・保護者のニーズに応じた子育て支援を促進
- ◇子育て世代の経済負担軽減・待機児童解消対策 **46.2億円 (39.5億円) P6**
国制度の幼児教育・保育無償化に加えて、保育料等の無償化や在宅育児世帯への支援、保育人材の確保と保育所整備による待機児童の解消を促進
- ◇不妊治療費の助成（こうのとりサポート） **93,424 (95,363)**
不妊に悩む夫婦を経済的、精神的に支援するため、不妊治療における医療費の助成や不妊専門相談を実施
- ◇子育て情報発信・相談体制の強化 **56,260 (54,044) P7**
安心して子供を生み育てられるよう、子育て支援制度等をスマートフォン等で検索できるシステムの構築やワンストップ相談窓口により相談体制等を強化
- ◇結婚支援や仕事と子育ての両立支援の強化 **19,930 (12,747) P8**
婚活イベントの回数増加や事前セミナーの開催、SNS等による情報発信など結婚支援を強化するとともに、企業と連携した仕事と子育ての両立を支援
- ◇きのくにコミュニティスクール推進 **18,174 (25,397)**
学校や地域が抱える様々な課題を解決するため、学校と地域が連携・協働した取組を県内全ての公立学校で推進

2. 子供たち一人一人が志高く未来を創り出す力を育む教育の推進

- ◇きのくにICT教育 **181,226 [補正393,174] (181,248)**
新学習指導要領に先行して取り組んできたプログラミング教育を着実に実施するとともに、県立学校のICT環境整備を推進
- ◇これからの和歌山の教育をつくる教職員の育成 **20,170 (-) P9**
教育力の向上を図るため、退職教員の登用等により教員へのサポート体制を充実し、積極的に研修や自主研究に取り組みやすい体制を整備
- ◇不登校等総合対策 **386,273 (344,581)**
不登校の解消に向け、未然防止、早期発見・早期対応、学校復帰までの各段階に応じた取組を総合的に実施
- ◇ICTを活用した不登校児童生徒への学習支援 **51,670 (42,615)**
不登校の解消に向けたスクールカウンセラー等による支援やICTを活用した不登校児童生徒への学習支援等を実施
- ◇きのくに学力向上総合戦略 **30,061 (32,127)**
児童生徒の学力向上のため、授業改善や補充学習等を通して指導を充実するとともに、優れた実践力をもつ退職教員等をアドバイザーとして派遣
- ◇ふるさと教育・道徳教育の推進 **9,004 (9,653)**
副読本として「わかやま何でも帳」を活用したふるさと教育、県独自の道徳教科書「心のとびら」希望へのかけはしを活用した道徳教育を推進
- ◇学校での依存症予防教育 **8,773 (5,954) P10**
スマートフォンやゲームへの依存予防のため、利用改善を促す運動を展開するとともに、ギャンブルを含む様々な依存症に対して、学校での予防教育を推進
- ◇幼児教育総合プロジェクト **5,352 (8,902)**
幼児教育と小学校教育の円滑な接続のため、小学校就学までに育てたい具体的な子供の姿を示し、成長に応じた切れ目のない取組を推進
- ◇高等教育機関の充実 **104.6億円 (28.4億円)**
県立医科大学薬学部の開設(2021年4月)に向けた取組を推進

1 ひとを育む

◇新規・拡充
◇継続

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

みんなが活躍できる社会づくり

1.誰もが働きやすく、多様な人生を楽しめる社会づくり

- ◇企業におけるテレワーク導入促進 6,652 (-) P18
時間や場所にとらわれず多様で柔軟な働き方を実現し、誰もが活躍できる社会を構築するため、県内企業における「在宅テレワーク」の導入を促進
- ◇就職氷河期世代の正社員雇用促進 10,583※ (10,583) P19
※既存事業の予算〔新たな助成金の予算措置は令和3年度以降〕
就職氷河期世代を正社員雇用する企業への支援制度を創設し、これまで全国に先駆けて取り組んできた正社員雇用促進策を強化
- ◇和歌山再就職支援「就活サイクル」プロジェクト 34,677 (35,677)
UIターン希望者や女性・高齢者の再就職を支援するため、本県独自の就活サイクルにあわせて、県内各地でセミナーや合同企業説明会を開催
- ◇社会人を対象とした学び直し講座の開設 21,472 (15,557)
外国人や義務教育未修了者及び社会人を対象とした「きのくに学びの教室」を開催
- ◇わかやま元気シニア生きがいバンク 9,641 (9,734)
80歳現役社会を実現するため、社会参加を希望する高齢者と活用したい団体を登録する「わかやま元気シニア生きがいバンク」の活動を推進

2.共に支え合う地域社会づくり

- ◇国民文化祭・ふるさと誕生150年に向けた花いっぱい運動 3,764 (14,667)
国民文化祭・ふるさと誕生150年に向け、おもてなしの心で来県者を迎えるため、県民総参加による花いっぱい運動を推進

3.心豊かにすごせる社会づくり

- ◇和歌山の文化力向上 327,997 (137,963) P11
紀の国わかやま文化祭2021、紀の国わかやま総文2021の開催に向けて、文化芸術に親しむ機会を創出するとともに、文化芸術活動に参加する機運を醸成

◇濱口梧陵生誕200年記念イベントの開催 18,749 (-) P41

濱口梧陵生誕200年記念行事を開催し、稲むらの火の故事など様々な功績や「世界津波の日」の趣旨を広く発信するとともに、県民の津波防災意識を向上

◇熊野地域の歴史・文化発信拠点の整備支援 500,000 (-)

新宮市文化複合施設内への熊野学の調査・研究等を行う中核施設等の整備に対し支援を行い、和歌山の誇る熊野の魅力を発信

◇スポーツの振興 444,721 (416,174) P12

国際舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化や、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境づくりを推進

◇南葵音楽文庫 9,854 (77,196)

2万点に及ぶ膨大な資料の整理・評価を終え、デジタルアーカイブのWeb公開を開始

4.人権尊重社会の実現

◇部落差別の解消の推進

部落差別のない社会を実現するため、条例で部落差別の禁止や、県・県民及び事業者の責務を定め、教育啓発の実施や相談体制の充実等により、部落差別の解消に向けた取組を推進

◇インターネット上の人権侵害対策 6,000 (6,000)

インターネット上の人権侵害を防止するための啓発等を行うとともに、差別書き込みのモニタリングを実施

◇社会人を対象とした学び直し講座の開設【再掲】

21,472 (15,557)

外国人や義務教育未修了者及び社会人を対象とした「きのくに学びの教室」を開催

子供を地域で育む環境づくり・困難を抱える子供たちへの支援

令和2年度：155,896千円
(143,078千円)

現状・課題

和歌山県子供の生活実態調査（H31.3公表）～経済的に厳しい世帯の傾向～

- ①家庭における学習習慣が定着していない
- ②家族以外の大人との関わりが少なく、子供の自尊感情に影響
- ③生活習慣・食習慣の乱れ
- ④世帯が孤立しがち
- ⑤支援制度や相談窓口の認知度が低い

子供の居場所（無料の学習機会の確保）の設置促進 **拡充**

全小学校区において、学習支援や体験活動を行う場を整備

設置場所 学校の空き教室や公民館等を活用 実施回数 週2回程度

実施内容 学習支援：宿題、教科書の音読、プリント等
体験活動：スポーツ、科学実験、工作等

※指導員等については、地域からのボランティアも募集

放課後児童クラブの全小学校区への設置促進

子供食堂の機能強化 **拡充**

子供食堂に**学習支援や多様な世代との交流等の機能を追加**し、さらなるコミュニケーション形成の場として設置を促進

- ・既存の開設補助金に加え、学習支援や多様な世代との交流等の機能強化補助金を創設

教育

訪問型家庭教育支援体制の整備 **拡充**

訪問支援

一部市町で実施していた、地域の子育て経験者や保健師、民生・児童委員などの**支援チームが、家庭訪問し、家庭教育について、情報提供や相談対応している取組を全県展開**

生活

ひとり親家庭への訪問支援体制の整備 **新規**

児童扶養手当を新たに受給する**ひとり親家庭へ支援員が全戸訪問し、相談体制を強化**

修学・就学支援 **拡充** 【4月から】経済的な理由により、大学や私立高等学校等への進学が困難な学生への支援が充実

- 本県が実施している「和歌山県大学生等進学給付金」制度（年間60万円支給）に加え、国が住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生等を対象に**高等教育の修学支援新制度（授業料等減免・給付型奨学金）を開始**
- 私立高校等に通う年収590万円未満の世帯の生徒等を対象に、**高等学校就学支援金の支給上限額を39.6万円（私立高校の平均授業料を勘案した額）に引き上げる**ことにより、**私立高校授業料の実質無償化**

子育て世代の経済負担軽減・待機児童解消対策

令和2年度：46.2億円
(39.5億円)

現状・課題

- 経済的理由で子供をもつことを断念することがないよう、国の保育料無償化制度を取り入れながら、多子世帯の経済的負担を軽減する県独自支援の継続が必要
- 待機児童ゼロを目指し、**保育人材の確保と保育所整備**が必要（待機児童数54人：H31.4.1現在）

保育料の無償化

◆本県では、従前から多子世帯への保育料等の無償化を実施



- H20** 保育所入所の0～2歳児(第3子以降)
- H28** 対象を3～5歳児にも拡大、幼稚園等を対象に追加(第3子以降)
- H30** 年収約360万円未満の第2子を対象に追加

◆国制度により2019年10月から保育料無償化の対象が拡大

※国の制度変更により、不足する部分（副食費）は引き続き支援

[保育料等無償化の対象世帯]

※赤字は県と市町村による独自支援

	第1子	第2子	第3子以降
3歳～5歳 	所得制限なし	所得制限なし	所得制限なし
0歳～2歳 	所得制限 年収約270万円 (住民税非課税世帯)	所得制限 年収約360万円	所得制限なし

在宅育児支援

◆第2子以降の0歳児を在宅で育てる家庭を支援

- 支給額** 150千円（15千円/月×10か月）
※県の助成は市町村の上乗せ助成の有無にかかわらず実施
- 対象世帯** [第2子] 年収約360万円未満まで
[第3子以降] 所得制限なし

保育人材の確保と保育所整備

●保育人材の確保

- ・ 返還金免除制度付き保育士修学資金貸付
[学費:月5万円 入学準備金:20万円 5年従事で返還免除]
- ・ 保育補助者雇上支援
[上限:295.3万円 貸付期間:最長3年 保育士資格取得で返還免除]
- ・ 潜在保育士の再就職支援

●保育所整備

- ・ 市町村が実施する保育所等整備を支援
- ・ 企業主導型保育事業の整備を支援

子育て情報発信・相談体制の強化

令和2年度：56,260千円
(54,044千円)

ひと

子育て

いのち

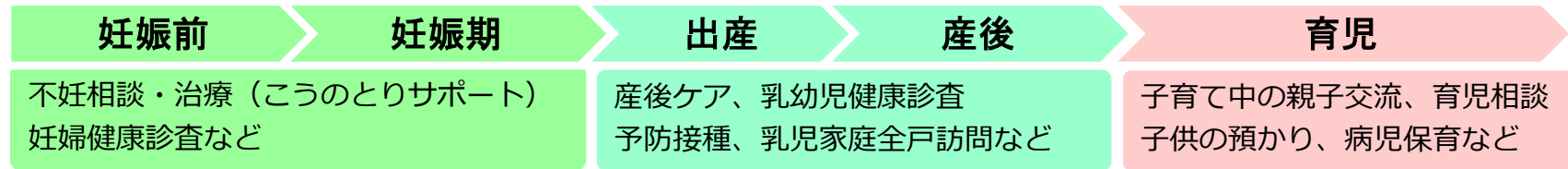
くらし

地域

7

現状・課題

安心して子育てができるよう、子供の成長段階等に応じた様々なきめ細やかな**支援施策・情報等を容易に調べられる手段や、相談体制が必要**



多様な子育て情報発信・相談体制

1 子育て情報検索システム **新規**

- ・直接窓口足を運ばなくても**24時間365日いつでも回答**
- ・県及び市町村の子育て支援制度や手続き等の案内
- ・子育て応援店舗等の情報提供（子育て世代を対象としたサービス等）



2 ワンストップ相談窓口



相談
助言・指導

子育て世代包括支援センター（全市町村）

- ・妊娠前から子育て期まで切れ目なく支援
- ・様々な育児の悩みに関する相談に対応

連携

関係機関

- ・医療機関
- ・保健所
- ・児童相談所等

結婚支援や仕事と子育ての両立支援の強化

令和2年度：19,930千円
(12,747千円)

現状・課題

- 結婚している人が子供を生む割合は上昇しているが、結婚している人の割合は低下
- 仕事と子育てを両立できる環境の整備が必要

〈有配偶出生率〉

⑰69.4% → ㉞79.5% (上昇)

〈有配偶率〉

⑰53.4% → ㉞49.6% (下降)

総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」

わかやま婚活支援の強化 **拡充**

● 若者になじみやすい広報

- メルマガに加え、公式ツイッター、LINE公式アカウント等 SNSによる婚活イベントの情報発信

● 婚活イベント内容の充実

- イベント回数を倍増 (10回→20回)
- 心構えなどを伝えるスキルアップセミナーを開催 (2回→20回)

男性の育児参加促進 **拡充**

6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連時間は、全国低位

● 男性の育児参加を促す普及啓発の強化

- 育児関連イベントの開催 (料理教室、男性の育児休暇等)
- 企業等と連携した取組 (男性の育児休暇の取得促進等)

働きやすい職場づくり

■ 結婚・子育て応援企業同盟 (平成29年9月発足)

【R元.12末：438企業等】

- ✓ 「社員が安心して結婚・子育て生活が送れる企業」を宣言
- ✓ 育児休業制度を整備し、社員研修等を実施
- ✓ 結婚や子育てをしやすい職場環境を整備

■ 女性活躍企業同盟(平成29年10月発足)

【R元.12末：502企業等】

- ✓ 「働く女性の活躍を応援する企業」を宣言
- ✓ 女性の能力が十分に発揮できる取組を実施
- ✓ 結婚や子育てをしやすい職場環境を整備

これからの和歌山の教育をつくる教職員の育成

令和2年度：20,170千円 **新規**

現状・課題

- 教職員の多忙化により自主研究や研修に参加する時間が減少するとともに、ベテラン教員の大量退職・新規教員の大量採用により年齢構成が偏在化し、教育力の低下が懸念
- 本県の教育力をさらに向上させるため、教職員が自ら進んで資質・能力の向上に取り組める体制が必要

教員へのサポート体制充実

- スクール・サポート・スタッフ等の専門スタッフ活用
- 退職教員を活用し、高度な専門性を必要とする業務に従事する教員の負担を軽減
- 学籍・指導情報の一元管理や成績処理業務を簡便化するため、校務支援システムを活用
- 夏季等の長期休業期間に休める環境づくり



研修や自主研究に取り組みやすい体制を整備

地域単位での教員研修の充実

◆ 教科研究団体支援

県内各地域の教員が自主的に集まり教科指導方法等を研究している教科研究団体に対し、研修会等を充実させるために必要な経費を支援

◆ ミドルリーダー育成

地域の教育を担う教員を育成するため、県内各地域で若手教員のグループを編成し、先輩教員を交え、指導方法や地域独自の課題への対応能力を向上させる研修を実施

研修情報管理システムの導入

研修の受講履歴等を一元管理することで、個々の教職員に必要な受講を促し、県全体の教職員の資質・能力を向上

長期休業期間を活用した研修参加や自主研究を奨励

学校での依存症予防教育

令和2年度：8,773千円
(5,954千円)

現状・課題

スマートフォン等の利用について、使用時間などをルール化していないと、生活リズムが乱れがちとなり、子供の成長に影響を生じる懸念

〈平成29年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）〉

スマホ等にて3時間以上ゲームをする児童生徒の割合：小学生18.5%（全国17.6%）、中学生26.6%（全国21.4%）

ストップ！スマホ・ゲーム依存 **新規**

スマートフォンやゲームへの依存による弊害について啓発するとともに、利用改善を促す運動を展開

① スタートアップイベントの実施

有名人による講演会と、専門医や大学教授などによるパネルディスカッションなど、シンポジウムを開催し、運動への関心を向上

② 学習資料の作成・活用

スマートフォン・ゲーム依存に係る学習資料を作成し、学校や家庭で活用

③ 家庭でのルール作り

スマートフォンと上手に付き合うため、啓発を行い、家庭内でのルール作りを促進

④ 有識者会議による検討 [令和元年度から先行実施]

学習資料の内容や運用方法についての検討

⑤ 学校内での使用禁止 [継続]

依存症予防教育の推進

ギャンブル、スマートフォンやゲーム、薬物など様々な依存症について、外部講師やリーフレットを活用した依存症予防教育を推進

和歌山の文化力向上

企画部 国民文化祭・障害者芸術文化祭推進室 [2465]
 教育庁 県立近代美術館 [073-436-8690]
 全国高総文祭推進室 [2702]

令和2年度：327,997千円
 (137,963千円)

国民文化祭

全国障害者 芸術・文化祭

- プレイベント
- 「盛り上げ隊」によるPR活動

全国高等学校 総合文化祭

- プレ大会
- 運営及び参加生徒の育成

2020

紀の国わかやま 文化祭2021 開催

文化芸術活動の発表・競演・交流などを行う国内最大の文化の祭典

・開催期間：
10月30日
～11月21日



紀の国わかやま 総文2021 開催

「文化部のインターハイ」と呼ばれる、高校生最大の文化の祭典

・開催期間：
7月31日
～8月6日



2021

<おでかけ美術館>

芸術に親しむ機会が少ない地域で、美術館が出張して若手作家の展覧会とワークショップを開催

おでかけ
美術館



(開催場所)
2019年 紀南地域
2020年 紀中地域
2021年 紀北地域

次は美術館へ



<県立近代美術館>
3年連続で大規模展覧会を開催

<文化振興事業委託事業>

国文祭に向け、県内の文化芸術活動を促進し、優れた芸術に触れ合う機会を充実

- ・伝統文化体験イベント、アートワークショップの開催など

総文祭に向け、国際交流コンサートやプレ大会を開催し機運醸成

スポーツの振興

令和2年度：444,721千円
(416,174千円)

2020

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」を通じたスポーツへの気運醸成

◆聖火リレーの実施

オリ：2020年4月10日～11日（県内14市町）

パラ：2020年8月16日（田辺市）

◆代表チーム事前キャンプの実施

カナダ（競泳）、オーストラリア（陸上）
日本女子※なでしこ（サッカー） など

2021

ワールドマスターズゲームズ2021関西

2021年5月14日～30日

概ね30歳以上なら誰でも参加できる
世界最大級のスポーツ祭

アジア地域で初開催

35競技 59種目
(和歌山県は
5競技 7種目)



WORLD
MASTERS
GAMES
2021 KANSAI
JAPAN

国際舞台で活躍できる競技者の発掘・育成

- ① 未来のトップアスリートを発掘・育成する「ゴールデンキッズ発掘事業」などの取組による競技力向上
- ② ジュニア・少年・成年の一貫指導体制による計画的・戦略的強化の取組を支援

スポーツに親しむ、楽しむ、支える機会を充実

- ① 気軽に参加できるリレーマラソンやマスターズスポーツ体験会を開催
- ② 本県施設の優位性を活かした国内外チーム等のキャンプを誘致



バンダRUN